

## 魅力ある生きがい事業団を目指して

公益財団法人平塚市生きがい事業団第3次中期計画(平成24年度~平成28年度)

### 1 計画の目的

平塚市生きがい事業団は、高齢者の社会参加のひとつの方策として、高齢者の持つ能力を社会に役立て、働くことにより生きがいを高めることを目的に、昭和55年8月に財団法人として設立されました。それから30有余年が経過し、平成24年度からは公益財団法人として、スタートしますが、更なる地域への貢献と健全な運営が強く求められています。

設立当初から順調に伸びていた事業は、平成19年に発生したリーマンショックや平成23年3月11日の東日本大震災により、日本経済は混迷し、事業実績は減少を続け、さらに、政府の行政刷新会議による事業仕分けで、国庫補助金は大幅に削減されるなど、今、事業団運営は厳しい状況に置かれています。また、高齢者の労働環境においても、年金支給年齢の引き上げによる65歳の定年制の法制化が見込まれ、今後の事業団のあり方が問われている状況であります。

このように社会経済環境が著しく変化している中で当事業団は、「自主・自立」「共働・共助」の理念のもと高齢者が就業を通じて社会参加の喜び、生きがいの発見などを得て、地域社会に貢献できることを目指していますが、この社会的な使命を果たし、市民の期待に応えていくためには、事業を適時適切に見直し、魅力的なものにしていく必要があります。今後とも事業団が着実に発展を遂げていくためには、より質の高いサービスを提供し、市民に喜ばれ、会員自身も生きがいを感じる事業を行っていかねばなりません。現在、多くの課題を抱えております。それらを解決するため、中期的展望に立ち、目標を達成するため、平成24年度を初年度とした第3次の中期計画として取り組む施策の概要をまとめたものです。

## 2 課題及び目標

### 課題 1 会員の増強、組織の充実

仕事への要望も多様化するため、様々な要望に対応できる人材の確保、組織の充実が必要です。

#### 目 標

(1) 会員の増強のため、新規会員の加入促進を図ります。

(2) 女性会員を増強します。

女性会員の割合を現在の 25%から 28%にします。(22 年度末の割合 25.6%)

(3) 会員研修を技能研修、サービス向上研修等体系的に整備し、時節に応じた必要な研修を行います。

(4) 地区班・職群班を活用し、組織力を高めます。

(5) 会員役員会活動を活性化し、運営基盤を強化します。

### 課題 2 就業機会の拡大

従来「生きがいの確保や社会参加の促進」に加え、新たに「多様な働き方及び多様化する会員ニーズ」に応じた就業機会の確保への対応が必要です。

#### 目 標

(1) 仕事の開拓、就業機会の拡大による生きがい就業の充実を図ります。

(2) 地域でのよりきめの細かいサービスの構築を目指します。

(3) 多様化する就業形態へ適正に対応するよう努めます。

(4) 適正就業のもと均等な就業機会の拡充に努めるとともに仕事の分かち合い、ワークシェアリングを推進し、就業率の向上に努めます。

(年間就業率を現在の 55%から 65%にします。)

### 課題 3 行政との連携

事業団は公共性・公益性の高い団体として地域社会に貢献する事業活動を展開してきました。これから我が国が経験したことのない超高齢化の時代に対処するには、福祉関係の部門だけでなく、教育、農業など多くの行政部門と日常的に情報交換ができる環境づくりが必要です。

#### 目 標

- (1) 行政など関係機関との情報交換を行います。
- (2) 事業団の広報活動や会員の研修会等への協力、支援を要請します。

### 課題 4 社会参加の促進

事業団が就業を通じた社会参加による生きがいつくりや地域社会への貢献を目的としていることから積極的な社会参加を推進する必要があります。

#### 目 標

- (1) 高齢者のボランティア活動やサークル活動などの充実を図ります。

### 課題 5 情報の発信

会員意識の高揚及び融和を図るとともに地域に貢献する事業団の周知度の向上を目指すため、情報の発信が必要とされます。

#### 目 標

- (1) 会員には就業状況、受注状況等の情報提供を、市民には、わかりやすい活動内容、その他幅広い広報活動を推進します。

### 課題 6 健全な運営並びに財政的自立

公益財団法人としての使命、地域への貢献と適正な規模での堅実な運営に努めます。また、事業団は時代の変化に適切に対応し、将来に明るい希望の持てる事業団にするため、コスト意識に根差した効果的、効率的な自立した財政運営に努める必要があります。

## 目 標

- (1) 公益財団法人として、健全な運営を目指します。
- (2) 収入の確保に努め財政的基盤を確立します。
- (3) 事業の改善・合理化を進め、効率的な運営に努めます。また、日頃から事務の効率化を念頭に経費節減に努めます。

## 課題 7 安全対策

安全就業は事業団事業の実施に当たっての基本であり、「安全はすべてに優先させる」をモットーに特に重篤事故ゼロを目標に安全、適正、就業対策を実施する必要があります。

## 目 標

- (1) 就業中の安全対策の整備、交通安全、健康管理も含めた安全意識の徹底を図ります。